

hey

「急成長プロダクトで私が体験した、QAチーム立ち上げの裏バナ

シ」

JaSST'21 Tokyo

Hey株式会社

プロダクトマネジメント部門決済本部

QAグループ リーダー 金子なづき

PMグループ マネージャ 永嶋広樹

登壇者紹介



プロダクトマネジメント部門決済本部
QAグループ
QA リーダー

金子 なづき



プロダクトマネジメント部門決済本部
PMグループ
シニアプロダクトマネージャ

永嶋 広樹

ABOUT US

提供サービス紹介

STORES プラットフォーム

お商売のデジタル化を支援する



お店や事業のお商売をサポートする「STORES プラットフォーム」というサービスを提供しておりまして、EC、決済、予約の領域を提供しています。

ハイ株式会社について

hey

ハイ株式会社

デジタルストアプラットフォーム

 STORES

ネットショップ
開設・運営

 STORES



お店の
キャッシュレス

 STORES 決済



集客ができる
ネット予約システム

 STORES 予約



もともとCoiney / STORES.jp / Coubic という別会社がそれぞれ提供していたプロダクトが、それぞれのミッションに共感し、一緒になりました。世の中のデジタル化の流れもあり、オーナーさんの解決したい課題は山積みですので、事業も組織もさらに拡大していってます。

従業員数



hey全体で組織の規模は2018年から5倍になっています。

Phase 1

「1名で始まった」

QA 1 名で始まった課題と解決策

課題1：QAというそのものをなかなか理解してもらえず、テストに終始してしまった

解決策：根気よくコツコツとやり続けることで、徐々に理解を広げていった。



QAは品質の砦なので、テストをQAすることは悪いことではないですが、**組織全体として品質について考える土壌を作っていく必要があります**。例えば、開発者にも自分の実装したものに責任もってテストをしてもらうことが大切です！そのため、テスト実施の方で信頼を構築しながら、プロジェクトの終わりに品質報告をまとめたり、QAというものの**自体の啓蒙活動**を社内の記事だったり、MTGで話すことを繰り返しました。

課題2：仲間が増えチームとしてできることは増えたが、メンバー間で品質についての考え方や仕事のスタンスを揃えていくのが難しかった

改善策：「品質改善ワーク」を行うことでチームの目線とモチベーションを引き上げた。



QAチームの作業って、とても大事なものですが、ひとつひとつは地味なものと考えています。そこで、なかなか日々向き合っているタスクだけだと見えなくなってしまいがちな「**自分たちのサービスのどこを品質改善した方がいいのか？**」というのを出し合うというワークショップを開催しました。実際にここから出てきた改善策も多数あり実績につながっているところがあります。

Phase 2

「急成長」

組織が急成長するQAコミュニケーション課題

課題：開発チームにテストについてヒアリングしたら「テストはあまり好きではない」と言われた過去

解決策：課題の深堀りを行い、チーム間の責任範囲を明確にした。

開発チームだけに課題があったわけではなくQAで守るべき品質の定義づけができていなかったため、どこまでが開発側で品質担保して、どこからがQAで品質担保するかがわからず、責任の押し付け合いが発生していた。



解決方法として、PMの人がやっていたものを真似し、プロジェクトが始まったらQAチームでどういう工程でどんなスケジュールでテストデータはこういうの必要！というようなチェックリストを作成して、開発チームと漏れがないか連携するようにしました。

結果、**チーム間の責任分担に対して具体的な定義**をしたことによって、互いにやるべきことも明確になり開発チームのやる気も出て、QAチームにテストが回ってくる時の開発時に潰しておくべき不具合の発生がかなり減少しました。また、副次的な効果として、**コミュニケーションが円滑**になりました。

Phase 3

「今取り組んでいること」

テスト自動化に着手！

テスト自動化を今まで手を付けなかった背景



テスト自動化は、**手段が目的になりやすい**と思っており、これまでもやりたいなどは考えていたのですが、目的をどこに置くかが定まらず、できていなかった経緯があります。それをするだけで事業的な効果がなければ導入しても意味なし、**導入したい人の自己満足になってしまう危険性**もあり今まで手を出さなかったという経緯があります。

テスト自動化を始めるところの目的



自動化は、テスト対象の向き不向きもあり、ケースの作成やメンテナンスを考えると、**単純な工数削減にはならない**のではないかと考えています。ただ、**拡大する組織においては「単純作業の平準化」「ミスの削減」みたいなところで効果が出る**のではと期待していて、今はそこを目的にしようと考えています。プロダクトの拡大にともなってプロジェクトは増えることはあっても減ることはないので、それを実現するためにQAメンバーも増え、ここまでくると、採用すればどうにかできる問題ではなくなってきます。人が多くなれば教育コストもかかってきますし、その分ヒューマンエラーのリスクも増えるわけで、このままいくと、流石にマニュアルでやるのには限界がくるだろうと考えています。

これまで話してきた、チーム目線の引き上げ、開発チームとのコミュニケーション量の増加によって、**組織としてテスト自動化に取り組む準備が整ってきました。**

本日のまとめ

Phase 1

品質改善ワークによるQA
チームのモチベーション向上



Phase 2

チーム間の責任範囲の明確化に
よる開発チーム全体のパフォー
マンス向上



Phase 3

手段と目的を間違えないテスト
自動化への取組



Phase X

さらに変容する課題に対する取組み

採用募集しています！

募集中の職種
詳細はこちらで検索



🔍 hey採用

<https://hello.hey.jp/>